

# 厚生労働



ひと、暮らし、  
みらいのために

4

2009. April

特集

## 平成21年度 厚生労働省予算の概要

地域からの発想 ● 埼玉県さいたま市

この人・素敵な話 ● 山田邦子さん



がんは、誰もが罹る病気。  
励ますのが私の使命。

[タレント]

# 山田邦子さん

「がんに関する普及啓発懇談会」メンバーになって

「がんに関する普及啓発懇談会」に参加いただいています。感想などありますか。

**山田** 懇談会座長の中川恵一先生と知り合いだったものだから声をかけられて、にぎやかに入れられたのだと思います(笑)。

がん手術を経験して復帰してから、私ができることはPR活動だと思いますので全国に行つてシンポジウムや講演などやらせていただいています。

「がん体験を綴られたご著書(「大丈夫だよ、がんぼう」主婦と生活社)を拝読しますと、乳がん検診もすつと受けられていたそうですね。

**山田** 祖母が乳がんだったので、大人になつてから検診を心がけていました。それでも魔が差すということがあるのでしょね、人間ドックに3年間行つていなかったんです。病院は時々、先生がいなくなったり代わったりすることがあつて。あれでつまずいて、どこの病院にしようかなと言っているうちに、がんであることが分かったわけです。

それまでとはどういう形でがんについての知識を得られていましたか。

**山田** テレビと本、後はやはり検診でしようか。行くとパンフレットがあつた



り、先生のお話を伺ったりするので、他の人よりは知識があつたかもしれない。せん：それでもまんまと(笑)、なつてしまつたわけですけども。

それでもいざなつてみたら、それまで漠然と思つていたのは全く違つていたことがたくさんありました。

がんはみんな罹る身近な病気

「ご関心もあり知識もあつた山田さんが実際にがんとわかつた時、大きなショックは感じられましたか。」

山田 ショックが無くはないでしょうね。それでも知識はあつたほうがいいと思います。私の場合は、もともと深くものを考えない(笑)、明るい性格です。考へて落ち込むということはありませんでした。

それと、一番良かったのは、お医者さんとの出会いだと思います。自分と相性の合う先生に最初から会えました。

すごく褒めてくれたんですよ。「よかつたですね、早期だった。ラッキーだ、ラッキーだ」と言うので、「ああ、良かった」という気持ちのほうが強くなつて、告知で落ち込んだりすることはなかつたですね。「見つかつてよかつた」と思いました。

今でも講演でよく言いますが、ここが運命の分かれ道でした。これがもし進行が進んでいれば、こういう答えにはならないわけですね。大変な治療が



必要ですし、手遅れとなれば死ぬわけですから。ただ、手遅れでなければ必ず助かるんです。完治はしないからいろいろ面倒くさいこともあります。けれども、何も病気をしない人よりも体のことに気をつけるので、病気を背負つたままずっと長生きすることが多いのです。よかつたと言うと変ですけど、早期発見して早期治療ができたことに感謝しています。

マスコミが取り上げるのは暗過ぎます。今、がんはそれほど暗いものでもないですよ。みんな罹りますから。

「2人に1人はいずれ何らかのがんになる」と中川先生が懇談会でもおっしゃっています。

山田 そうなんです。そう言われてみれば、身近でもよく聞きますね。だから「ああ、来たか」というぐらいで。

たとえ今日「治らないかもしれない」と言われても明日は治りますよ。医学はどんどん進歩しているの、望みを捨てずに前向きに、明るく元気にしようのが、一番言いたいところです。

まさに懇談会で中川先生がおつちやつたように、「山田さんのそういうところに負つて」が非常に大きい」と。

山田 中川先生はするいんですよ(笑)。座長をして自分だけ格好いいんですよ。それで議題に詰まると「山田さん、どう思いますか」と、私をブレイクタイムに使つているところがあるんです(笑)。

ただ、後で議事録が回つてきて、まるで落語の本のように全部ちゃんと書き取つてあるのが素晴らしいと思ひました。ホームページで公開されていて、全国で見られますので、責任重大だと思つています。

病院は忙しすぎる

「検診あるいは治療と、病院とのおつち合いは長いようですが、病院について直したほうがいいと思つたことがありましたらお話しいただけますか。」

山田 関東では「乳がんと言えはS病院」というところがあつて、行きつけの病院ではなかつたのですが、S病院に伺いました。

本当に驚いたのは、患者さんが多くて、予約を取つて行つていくのにすごく



# 山田 邦子さん

Y a m a d a K u n i k o

## この人 INTERVIEW 素敵な話



(やまだ くにこ)

昭和35年東京生まれ。56年、テレビドラマ『野々村病院物語』でデビュー、同時にバラエティ界にデビュー。以後、司会・ドラマ・舞台・講演・執筆等マルチな才能を発揮、NHK“好きなタレント”調査では8年連続第1位を記録。平成19年、健康番組出演がきっかけで乳がん罹患を発見し、手術を経て仕事に復帰。その後はがんについての講演なども精力的に行い、また20年には、がん撲滅を目指す芸能人チャリティ組織「スター混声合唱団」を結成し団長を務めている。20年に発足した厚生労働省「がんに関する普及啓発懇談会」メンバー。

●聞き手 鎌田光明・厚生労働省広報室長  
●撮影 山本祐之

医者との信頼関係を築くには

待たされました。待合室は人であふれかえっていて「乳がんの人はこんなに大勢いるのか」と思いました。放射線科に移ったら今度はほかの病気の方も来ますから「こんなに具合が悪い人が多いのか」と思いました。

先生たちはこちらが心配になつてしまうぐらい、いつも疲れていますね。かわいそうだなと思えますけれども、頑張ってもらわなければならないです。

医師が足りているところと足りていないところの差があるのではないですか。誰しも良い病院で診てもらいたい。でも私がこんな話をすれば、「乳がんだったらS病院に行こう」となつてしまつて、また同じ病院ばかりが混んでしまうのですが。

手術の際に「誰に最後の判断を任せますか」と聞かれたときに、「主人ではなく「先生」とおっしゃって下さいね。」

**山田** がん患者は、なろうと思つてなつたわけではなく、大抵は初めての経験で、何も分からない初心者です。先生たちはプロですから「どちらにしますか」と常に選択させるのです。胸のことも「全摘しますか、温存がいいですか」と聞かれても分かるわけがないですよ。

いつも「AとBがあります、どちらがいいですか」です。私はしゃべる商売で生きてきましたから、「先生はどちらがいいと思いますか？」という感じですぐに対応できましたが、一般の人は悩んでしまいますね。

それで手術のとき、麻酔のことなど分からないのに、当たり前のように誓約書を書かされますね、「万が一のときはごめんなさい」というような(笑)。

仕方がないので署名しますが、わけが分からなくなつていくところに、「誰に一任しますか」と聞かれます。普通は旦那さんの名前を書くようですが、考えると、うちの旦那はおろおろするばかりでたぶん正確な判断はできないだろう、そうだ、手術中だからと思つて、先生の名前を書いたら、「そこは違えます」と大笑いされました(笑)。

医師に話したいというその気持ちはあつたね。

**山田** 患者はそのぐらい何をしたいか分からないのです。でも、恥ずかしくらずにどんどん質問をして、痛いときは痛い、具合が悪いときは具合が悪い、不安なときは不安と、ありのままに言ったほうがいい。先生はその中からヒントを得るかもしれないし、私はそうやつて先生と信頼関係を築いてきました。

でも病院のあの混みようでは、先生と1時間話すことは無理ですね。10分とか15分ですから、不安が取り除けないときがあります。私は同じ病気の人同士で話すことで元気になれたので、どうせ何時間も待つのなら待合室の横にサロンのようなものがあつたらと思います。この次の医療ですね。

いくら温存で、美容整形をしたのではないかというぐらいきれいな術後の胸でも、傷はあります。何でもなかったときの胸と比べればひどい傷ものなんです。先生方が見ると「素晴らしい出来映えだ」と言うのですが、それは医学的にということですね。先生とこれ以上話すことは無理なんです。そうなたときに、患者同士で話したり、あるいは女の先生でカウンセラーを兼ねるような人がいれば、例えば胸を気にして夫婦生活がうまくいかないというような話でもできるわけです。





「前向きに考え、いい先生に出会って、支えがあったということですが、最後には家族にも「うつった」ことを知っていただきました。いいことですね。」

**山田** 患者本人はもちろん頑張っているわけですが、主人を見ていて、本人以上に落ち込んだりしていることがよく分かりました。特に乳がんの場合には旦那さん同士が励まし合って、私の主人も元気になりました。そうか、家族も周りの人も落ち込んだりするのだ、これもまとめて応援して欲しいと思いました。

### がん患者や周りの人を 応援するスター混声合唱団

「スター混声合唱団」も始められました。

**山田** 芸能人にもがんの人はたくさんいますが、芸能界は古い考え方があって、病気を隠すのです。健康なイメージがなくなると役がつかない、仕事の話が来なくなるということ、

嫌がられた時期があつて、私ですら、うちの事務所は古いタイプですから「隠そう」と言われたのです。

私は、「そんな時代じゃない。悩んでいる人がいるのなら言っていくのが私の仕事ではないか」と、公表することに決めました。

そうすると、よくぞ言ってくれた、私もだれもだと、芸能人が集まったわけです。「スター混声合唱団」をやるということになって、とりあえず1回会ってやれば良いと思いましたが、あつという間に患者の方々、ファンの方々がついて、「すごくよかった」「次はいつですか」「もう一度やってください」「来年は、再来年は」となっていたのです。

今は情報時代ですから、連絡が如何のようにも入ってきます。電話、メールで「ここでもやってください」「私たちはこういう会です」と全国から来るわけです。一つひとつお返事をして、全部にお会いしています。マネジメントは素人ですから、手探りでやっています。

「おそろくそれが一番着実で、確実に伝わるやり方かなと思います。」

**山田** 今のところスケジュールは真っ黒です。やり過ぎですけどね。東京・築地の国立がんセンターの中でもコンサートをやるという大変なことになりましたけれども。

スター混声合唱団は、歌唱力は二の次ですけど、笑顔と知名度が抜群



スター混声合唱団(厚生労働省で)

ですから、最初からマスコミの食いつきがよくて、新聞、雑誌、NHKのニュースでも流してくれました。団員もどんどん増えてきて、がんではない芸能人でも「マネージャーがそうだった」「親がそうだった」ということが入ってくださつて、今、68人というすごいことになってきています。

厚生労働省の会議室でもお歌いになりましたね。

**山田** あの時人数も少なかったですけど、音無美紀子さんと岩崎良美ちゃんも来てくれて、会議室ですからピアノもなく、アカペラで歌いました。

まあ、「合唱団」とはしていますが、アナウンサーの人も多いから朗読もし

ますし、女優がいますから寸劇のようなこともやりますし、パフォーマンスはいろいろです。歌わなくてもスター混声合唱団です。

イベントではウォークラリーもよくありますね。会にはスポーツ選手も入っていますので、小児がんの子どもたちが学校に行くことができないのならスポーツ選手を派遣することもできるというので、病院や支援団体と話を進めています。

皆さん、本当にノリがよくて、電話一本で来られます。スケジュールがだめなときは「だめです」と言うのも早いですけど(笑)。「行きます」と言われると、本当に来るのかなと思いますが、ちゃんと来られます。志が高くてうれしいです。

「そついった方々に活動していただかないと、「がん」という言葉には前向きな気持ちで興味が湧かないですね。」

**山田** 変えたいですね、「がん」という病名も変えられないですかね。私は「キョン(笑)が一番好きなんです。」

漢字の「癌」も山盛りのぶつぷつでしよう? そこにやまいだれですから、あの字も上だけ花かんむりにするとか(笑)、下は☆印にしてしまおうとか、直してもらいたいですね。

「ごめありがとうございます。」